

とけていくテクノロジーの縁結び

新井 英夫



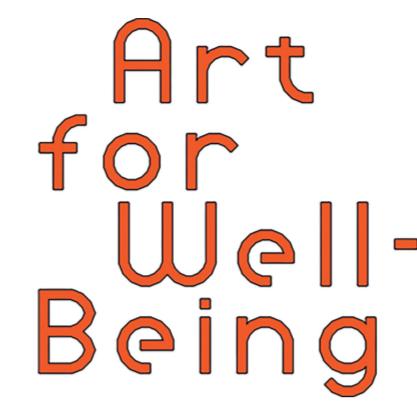
体奏家/ダンスアーティスト、2022年夏にALS(筋萎縮性側索硬化症)の診断を受ける

佐久間 新



ジャワ舞踊家/たんぽぽの家「ひるのダンス」
ファシリテーター

運営



Art for Well-beingチームのスタッフ、全体
監修の小林茂さん

筧 康明



インタラクティブメディア研究者/アーティスト/
東京大学大学院情報学環准教授

2018年度

共創の舞踊劇『だんだんたんぽに夜明かしカエル』

佐久間さん(演出・振付)、筧さん(IoT監修)、たんぽぽの家(制作)らが協働して、
障害のある人、ケアする人、ダンサー/音楽家によるユーモアを交えた舞台をうみだしました。

2022年度

2022年度の取り組み: 分身ロボットOriHimeとダンスの可能性を探る

分身ロボット「OriHime」を使って新井さんと佐久間さんがリモートで踊ることを2回に渡って実施しました。

2023年

11月

パートナーとしてふだん新井さんの
ケアをしている板坂記世子さんも参加

新井さんと実際に会って踊りたい
です。その際は、対話しながら一
緒に開発してくれる人といろんな
実験を試みたいです

根気よく実験に付き合ってくれる開
発者は果たしているのだろうか…。
そうだ、一緒に舞踊劇をつくった
筧さんがいた!

Art for Well-beingチームから
筧さんへプロジェクト参画打診

第1回ワークショップ: 初めてのリアルセッション実施 @東十条区民センター

新井さん、佐久間さんの初めてのリアルセッションの場に、パフォーマンスの助っ人として板坂さんも加わりました。
筧さんはそれを見て、「ALSとともに踊る身体を感じる」装置を考えるヒントにしました。

コミュニケーションツールという
とどうしても言語に焦点がいき
がちですが、自分の感覚を相
手と共有する、拡張することが
大事なように思います

今日はむっちゃリハビリになり
ました。療養とクリエイティブ
の合間の、まだ名付けられな
い領域があるのだと思います

新井さんと佐久間さんとの
あいだで交わされた
絶妙な力加減のやりとり

みんなの動きはそれだけでもう
有機的で面白かったので、僕が介
入してそれ以上何か伝えたりする
必要はあるのでしょうか

できるとすれば、みんなの動きや
物との関係の中に存在する、見え
ない空気の流れを見るようにす
ることかもしれません

2024年

2月

筧さん開発デバイスによるリハーサルの実施@東十条区民センター

11月のワークショップを見た筧さんが、今度は、新井さん、板坂さん、佐久間さんにレインステイックと重力加速度センサを素材に用いた
デバイスや影絵用のデバイスを開発し提案しました。リハーサル後にプロジェクト名も決まりました。

アートはあんこ、テクノロジーは塩。
塩があんこのなかにとけていくこと
であまみが対比的に際立つかも!

とけるとは、溶ける、解ける、説け
る、融ける。いいタイトルですね

とけていくテクノロジーといっても、
環境に多数のセンサーを埋め込むう
とかそういう話ではないんですね
(小林茂)

テクノロジー自体は消えていって
い、でもそれにより、活性化する関
係が残ればいいと思います

テクノロジーは、それぞれの存在が
「である」ということがわかる、アンビ
エントな媒介であるように思います

第2回ワークショップ: 限定公開実験パフォーマンスの実施@東十条区民センター

新井さんの医療に関わる方々や、ダンサー、プロデューサー、アート関係者、技術開発者などの人たちが限定公開のパフォーマンスを鑑賞。
パフォーマンス後、1時間半にもおよぶ熱量あるふりかえりの時間を共有しました。

自分の病気の進行に合わせて、自
分の感覚の雑味をそのまま残したま
まフィードバックしてくれるテクノロ
ジーに出会えたら、希望になるなっ
て気がします

介助やリハビリで日々ずっとやっ
いるところから違う関係性が生ま
れることも、このプロジェクトでは
大事なことだと思います

新井さんの主治医の先生からも「ぜ
ひいろんな人に見てもらいたい」と
言ってもらえてよかったです

体の動きが波になって、この空間の
見えない関係が、いろんな感覚で
見えたり聞こえたりしてくるとい
うのが、やりたかったんです